

障害者キャンプにおける大学生カウンセラーの満足度に関する研究 —参加動機と継続意に注目して—

清水 咲希 (生涯スポーツ学科 野外スポーツコース)
指導教員 黒澤 毅

キーワード: 障害者キャンプ, 大学生カウンセラー, 満足度, 参加動機, 継続意欲

1. 序論

松本²⁾によると, わが国におけるボランティア活動は社会福祉領域を中心とした高齢者や障害者の施設における活動から, 地域社会での医療, 健康, 学習, 文化, スポーツとあらゆる活動と領域へと広がりを見せ, 社会的に貢献する活動として非常に重要な地位を占めている, と述べている. 障害者に対する支援が進んでいる社会において障害者キャンプもその一環として捉えることができ. そこに関わるボランティアスタッフの満足度や継続意欲について明らかにすることは, 今後の障害者サポートが進む社会づくりの観点からも意義あるものとする. そこで本研究は, 障害者キャンプに参加する大学生カウンセラーの満足度について明らかにするとともに, 参加動機及び, その後の継続意欲との関連について検討することを目的とする.

2. 研究方法

【対象者】平成29年8月21(月)~8月24(木)に3泊4日でNPO法人Aキャンプが主催するキャンプに参加した大学生カウンセラー31名を対象とした.

【調査方法】堀ら¹⁾が作成した満足度測定尺度から本研究にふさわしいと判断した9項目を質問用紙調査に用いた. また, 松本²⁾が作成した参加動機尺度から8因子23項目を質問として用いた. また, 大学生カウンセラーの継続意欲に関する質問1項目を調査した. 質問に対しては5段階評定としキャンプ後に調査した.

3. 結果と考察

1) 障害者キャンプに参加した大学生カウンセラーの満足度は高く, 特に「スタッフ間での居心地が良い」が最も高かった. また, 参加動機については, 「ボランティア」, 「自己成長」, 「参加者交流支援」が高く, 参加者に喜んでもらうこと, 新しい自分を再発見できることへの満足度が影響していると考えられる.

2) 参加動機と満足度が継続意欲に及ぼす影響

について, 参加動機と満足度の関係を検討するため, 重回帰分析を行った結果(図1), 「ボランティア」が, 満足度に高い, 影響力を示した. (ボランティア, $\beta=0.454$, $p<.01$). 次に, 満足度と継続意欲の関係を検討するため, 相関分析を行った. その結果, 満足度と継続意欲の関係は「スタッフ間での居心地が良い」のみに関係がみられた($r=.492$). スタッフ間での居心地の良さは, カウンセラーとして大変な活動をやわらげる効果があり, 満足度につながったことが, 継続要因と関係していた要因と考える. しかし, スタッフにかかる負担が大きいことから満足度は継続意欲には影響しなかったため, スタッフの居心地が良いことだけでなく, 今後はカウンセラーにとって満足度が継続につながるキャンプ作りも重要であると考えられる.

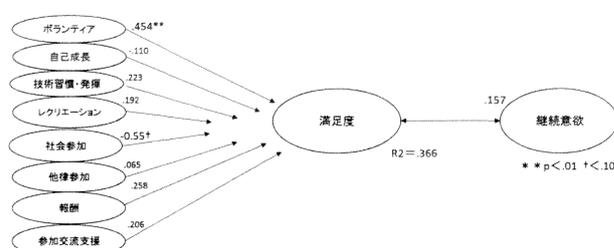


図1 参加動機と満足度が継続意欲に及ぼす影響(全体)

4. まとめ

障害者キャンプにおける大学生カウンセラーの満足度は高く「スタッフ間での居心地が良い」が影響した. 参加動機は「ボランティア」が最も影響し「ボランティア」意識は満足度に影響した. しかし, 継続意欲につながるためには, 今後さらなる検討が必要とされる.

引用参考文献

- 堀洋道・吉田富二雄(2001):心理測定尺度集Ⅱ 人間と社会のつながりをとらえる(対人関係・価値観)職場環境, 職務内容, 給与に関する満足感測定尺度, サイエンス社, pp305
- 松本耕二(1999):ボランティア活動への参加動機に関する研究-障害者スポーツイベントにおけるボランティアに着目して-, 山口県立大学社会福祉学部紀要, 第5号, pp147